

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

臨床麻酔 (1999.04) 23巻4号:739.

腹腔鏡用洗浄吸引ポンプによる体温低下

鈴木昭広

コラム

腹腔鏡用洗浄吸引ポンプによる 体温低下

編集者 殿

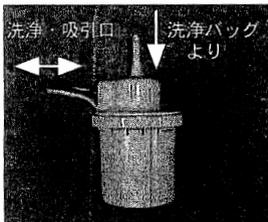
外科の胆嚢摘出術に限らず、今日では産婦人科、整形外科、泌尿器科、耳鼻科、歯科口腔外科などさまざまな科で何らかの鏡視下手術が行われ、新しい道具も次々に登場している。

中でも、洗浄用ポンプは画期的で、これまでの加圧バッグによる注入をはるかに圧倒するスピードで短時間に大量の洗浄液を術野に送り込み、手術時間の短縮に貢献している。

ストライカー社製のポンプ (Fig.) は、1分間に数 l の液体を移動させることが可能である。今回このポンプを初めて用いた際、洗浄に伴い術中体温が2度近く低下した症例を経験した。腹腔鏡下の卵巣摘出術で、このポンプを接続して洗浄液を送り込んでいるうちに、5 l 以上の室温の生理食塩液が腹腔内に注入され、入室時に37度であった膀胱温、腋窩温が、35度近くまで低下した。当初、2 l 分の温生食が準備されていたが、あまりに洗浄スピードが早く、術者の催促に従って外回り看護婦が未加温の生食を誤って接続してしまった。輸液の加温、ブランケットによる加温などを行い、36度台に回復したが、退室時にはふるえ症状が見られた。不整脈など重篤な事態には至らなかったが、これ以降は各部屋の加温洗浄液の常備を増やすよう看護スタッフに依頼した。新しい技術には新しい合併症がついてくる。見慣れぬ器具の使用時には麻酔科医も注意すべきである。

鈴木昭広

(旭川医科大学麻酔・蘇生学教室)



イリゲーション・サクシオン ハンドピース
Stryker 社製

Fig. The irrigation pump.